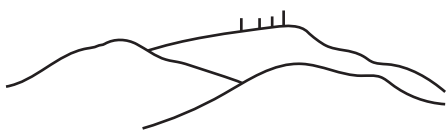


Youth Manna

2021/4/26 - 5/2



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/4/26(月)

使徒 3:1-10

宮の門のところにいた生まれつき足の不自由な人が、ペテロとヨハネに施しを求めました。ペテロは「私にあるものをあげよう」と言い、そこで驚くべきことが起こりました。6-8節をもう一度読もう！

ペテロはこの出来事を、イエスの名を信じる信仰によって起きたことであることを証しています(16)。詳しくは書いていませんが、どこかの時点で確かにこの人のうちに信仰が芽生え、彼のうちに働き、癒しが起こったのです。

私たちに与えられている信仰は眠っていませんか？ただイエス様の名前を知識として知っているということにとどまらず、全ての権威を持っておられるイエス様であることを覚えよう！いつも目を覚ましていて、今日も神様が君に語られていることを聞こう！

2021/4/27(火)

使徒 3:11-26

生まれつき足の不自由な人の癒しによって大勢の人が集まってきたのでペテロとヨハネはその機会を逃しませんでした。

人々は癒しをした人に注目したけれど、ペテロとヨハネは奇跡の源であるイエス様を証しました。集まったユダヤ人一人ひとりがイエス様を十字架にかけたこと、しかし悔い改めれば罪赦されること、イエス様の再臨のこと、奇跡を体験した人が信仰によって癒されたように、そこにいるユダヤ人一人ひとりが約束された祝福を信仰によって受け取り逃さないようにと訴えました。

●私達もペテロとヨハネのように機会を逃さず福音を語れるように祈り備えよう！！

2021/4/28(水)

使徒 4:1-12

祭司、大祭司を含めたサドカイ派は死者の復活を否定していた。彼らは復活を述べ伝えていたペテロとヨハネに苛立ち、手をかけ捕らえた。翌日2人を尋問するために集まった人々はイエスを十字架につけた張本人たちであり、イエスを尋問した時と同じことを2人にした。2人は聖霊に満たされて語り、「この方以外には誰によっても救いはありません。」(12)と宣言した。

このイエスに関する主張は、十字架による死、復活、昇天という、神以外にはなしえない事柄に裏打ちされている。

イエス様は十字架により、全ての人に救いの道を開いてくださった。このことを感謝し、祈ろう！イエス様以外に救いが無いことに確信を持とう！！

2021/4/29(木)

使徒 4:13-22

今日のみことばのひかりのタイトルでは、「神に従うか人に従うか」とある。

18節で、祭司、宮の守衛長、サドカイ人たちが、これ以上神様を述べ伝えるなどペテロとヨハネに言った。しかし、これに対し二人の答えは19節の通りであった。これは、簡単に言うと「神に聞き従うよりも、あなた方に従う方が良いと言うのですか？」とあえて分かりきっていることを質問で答えている。

これは簡単な事のように難しい。現にペテロも、この数ヶ月前にイエスが十字架にかかった時にイエスを知らないとして三度も否定している。この時ペテロ、ヨハネがはっきりと否定できたのは聖霊に満たされていたことを忘れてはならない。そして、その時強くて、また弱くなる事もある。人は弱いものである。

だからこそ、神様に満たされて歩み続けることが出来るよう祈ろう！！

しみぜろの日

2021/4/30(金)

使徒 4:23-37

ペテロとヨハネは脅された後、仲間のあるところに行き心一つにして祈った。今日はその祈りに注目してみよう！

①**神様の大きさを想う**：24節

まず祈りは、主の偉大さを告白するところから始まる。王である主の視点から見ると、大きく感じていた問題も小さな事だということを確認している。

②**みことばから受けとる**：25-28節

直面する問題に対して、聖霊は1,000年前に書かれた詩篇2篇を通して、弟子たちを励まし祈りに導いた。聖書の言葉は今も生きて私たちを励ます！

③**神のみこころを祈る**：29-30節

弟子たちは「みことばを大胆に語らせてください」と祈った。神は全ての人々が救われて真理を知るようになることを望んでいるからだ(1テモテ2:4)。

▶この祈りを参考にしてお祈りしよう！

2021/5/1(土)

使徒 5:1-11

初代教会の人たちは、自分たちのものを共有して生活していた。それは強制されたのではなく、一人一人が自分から神の家族としてすすんでささげたものだった。そんな中、自分のすべてのものだと嘘をついてささげた夫婦がいた。それがアナニアとサツピラだったんだ。

神様は2人に死という結果を与えた。それはすべてのものをささげなかったからではなく、自分のプライドを優先して嘘をついてささげ物をしたからだった。

神様は教会に対して誠実にいること、正直にこのことを通して人々に教えられたね。私たちがいる教会も主のきよい宮であることを覚えて、正直にすごそう！

2021/5/2(日)

使徒 5:12-26

神様なしではありえない奇跡が起きていても、ねたみに燃えるパリサイ人たちはそのことに目を留めることが出来ませんでした。自分たちが信じ、仕えているはずの神様がなされた御業であるにも関わらず、サドカイ派の人たちはそのことを妨げようとしていたんだね。

ねたみが心に入り込むときに、自分自身を神様から遠ざけ、人をさばきます。私たちの信仰生活の中にも、いつの間にかねたむ心が入り込むことがあるのではないのでしょうか。ねたむ心ではなく、イエス様の愛で心を満たすことができるように、お祈りしよう！！

愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。(第一コリント13:4)